

◇ 教員免許更新講習シラバス(選択領域分)

講座内容についての問い合わせ先…koushin@nara-edu.ac.jp(奈良教育大学)

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
美術科学習におけるアクティブ・ラーニングとは ／陶芸実技「土の表情」の発見と応用		中高美術教諭	6H	講義・演習・実技
日程	定員	講師名(所属・職名等)		
平成29年8月24日(木)	20人	竹内 晋平(奈良教育大学・准教授) 原山 健一(奈良教育大学・准教授)		
会場				
奈良教育大学				
【講習の概要】				
<p><1・2時間目>美術科学習におけるアクティブ・ラーニングとは> 新学習指導要領の動向に基づいた美術科学習のあり方を探ることを目的とする。とりわけ鑑賞の指導に焦点を当て、生徒の能動的な学びのためには、どのような指導が必要なのかについて考察していきたい。</p> <p><3・4時間目>陶芸作品の表面を観察すると、「釉薬」や「焼き味」だけでなく、実は自然に出来ている様で、「土の表情」(土味・テクスチャー、質感)の工夫がされている事が多い。質感を主役にした器の制作を実践し、陶芸(工芸)制作について考察する。</p>				
【小テーマ①】 美術科学習におけるアクティブ・ラーニングとは			3. 0H (担当講師:竹内 晋平)	
講習形態	講義形式・演習形式			
講習内容	技能の伸長のみではなく、個々の生徒が能動性を働かせる美術科学習のあり方をさぐるため、鑑賞の指導中心として題材検討を行います。			
到達目標・確認指標	新学習指導要領の動向に基づいた美術科学習のあり方を考察することを目的とします。			
キーワード	アクティブ・ラーニング, 学習指導要領, 鑑賞			
【小テーマ②】 陶芸実技「土の表情」を活かした器制作			3. 0H (担当講師:原山 健一)	
講習形態	講義形式・演習形式・実技形式			
講習内容	陶芸(工芸)特有の質感を主題にした作品制作について、作例の紹介から制作の実践までを行います。			
到達目標・確認指標	作品制作の実践を通して陶芸(工芸)特有の表現について考察することを目的とします。			
キーワード	工芸、陶芸、器			
試験方法	小テーマ① 講習の最後に20分程度の筆記試験を行う(講義及び演習160分、試験20分)。 小テーマ② 講習の最後に20分程度の筆記試験を行う(講義及び演習160分、試験20分)。			
成績評価の方法・基準等	小テーマ① 筆記試験で成績評価を行う(50点満点)。 小テーマ② 演習と筆記試験で成績評価を行う(50点満点)。①②をあわせた総合点60点以上を合格とする。			